

平成26年度「全国学力・学習状況調査」における
ひびきが丘 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成26年4月22日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語・算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 【国語A・算数A】	主として「活用」に関する問題 【国語B・算数B】
<ul style="list-style-type: none">・ 身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・ 実生活において不可欠であり、常に活用できているようになっていくことが望ましい知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・ 様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

1. 教科に関する調査結果の概要

① 学力調査(国語A・B、算数A・B)結果

・本校の結果

国語A	全国平均正答率を下回っている。
国語B	全国平均正答率を上回っている。
算数A	全国平均正答率を下回っている。
算数B	全国平均正答率を下回っている。

(資料) 本市・全国の結果【平均正答率】

		国語A	国語B	算数A	算数B
平成24年度	本市	79.4	52.2	70.4	56.1
	全国	81.6	55.6	73.3	58.9
平成25年度	本市	60.3	46.3	74.6	56.5
	全国	62.7	49.4	77.2	58.4
平成26年度	本市	69.1	52.6	76.2	55.4
	全国	72.9	55.5	78.1	58.2

② 学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	全国平均得点率をやや下回るものの、「話すこと・聞くこと」に関する問題では、全国の平均得点率を少し上回っていた。全体的に、目的に応じ、適切に書いたり、的確に読んだりすることに関する基礎的・基本的な事柄について、さらに身に付けていく必要がある。
	よくできた問題	文章表現の仕方でも適切なものを選んだり、話合いの記録の仕方についてよりよいものを選んだりすることは、よく理解できていた。
	努力が必要な問題	物語に登場する人物の相互関係を正しく捉えたり、情景描写を正しく理解してその効果を捉えたりすることにやや課題がある。

国語B	全体的な傾向や特徴など	3つの領域「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については、全国平均得点率とほぼ同等か、少し上回る傾向にあった。記述式問題も、全国の平均得点率よりわずかではあるが上回っていた。
	よくできた問題	目の付けどころの違いから生じる、詩の解釈の違いを捉えることができていた。
	努力が必要な問題	目次や索引を活用し、本を効果的に読んだり、自分で判断して考えを書いたりすることに、やや課題がある。

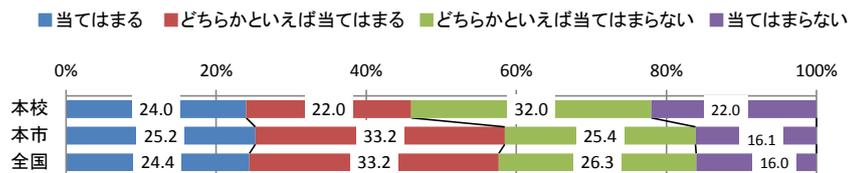
算数A	全体的な傾向や特徴など	「量と測定」に関する問題では、全国平均得点率よりも上回っていたが、他の「図形」及び「数量関係」に関する問題については、やや課題がある。
	よくできた問題	単位量当たりの大きさの求め方については、よく理解できていた。
	努力が必要な問題	減法と乗法が混じった計算、また□や△などの記号を使って式に表す問題にやや課題があった。

算数B	全体的な傾向や特徴など	「図形」に関する問題については、全国平均得点率を上回っていた。他の「数と計算」「量と測定」「数量関係」に関する問題については、やや下回る傾向にあった。
	よくできた問題	示された条件を基に、残った平面に4つの長方形を敷き詰める問題はよくできていた。
	努力が必要な問題	示された情報を基に、条件に合う時間を求める問題、また、基準量と比較量を捉え、倍を求める問題に課題があった。

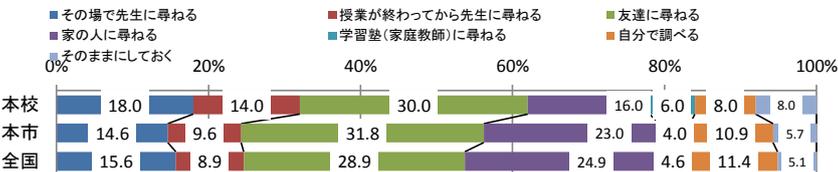
③ 学校での学習状況に関する調査結果

質問番号
質問事項

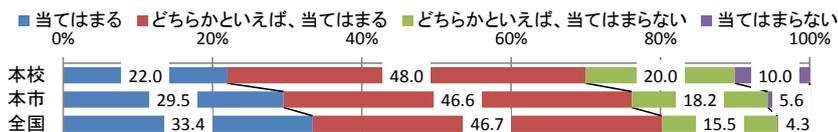
47
学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか



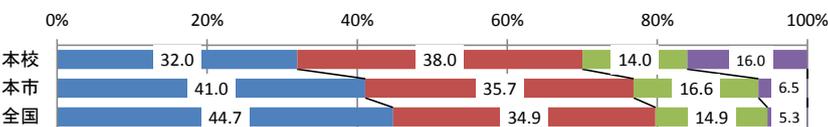
49
授業の中で分からないことがあったら、どうすることが多いですか



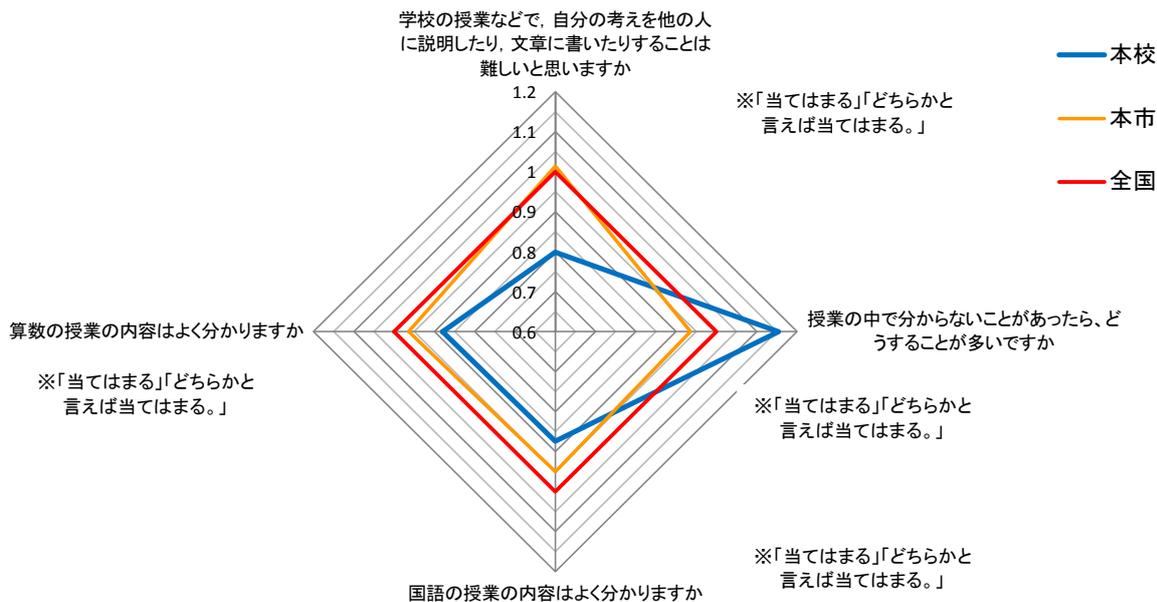
52
国語の授業の内容はよく分かりますか



64
算数の授業の内容はよく分かりますか



④ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



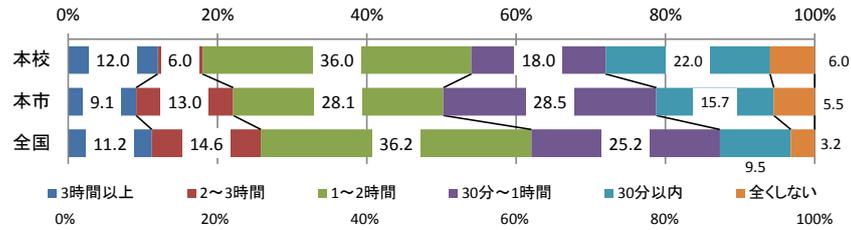
⑤ 学校における学習状況に関する調査結果の分析

- ・全国とほぼ同様に、考えを説明したり、文章に書いたりすることは、難しいと感じている児童がほぼ半数近くいる。
- ・授業中、分からないことをたずねたり質問したりする児童の割合は、全国に比べると比較的高い。
- ・国語や算数の授業の内容がより分かるように指導に努めたり、個別指導や習熟度別指導等も、さらに進めていくことも必要である。

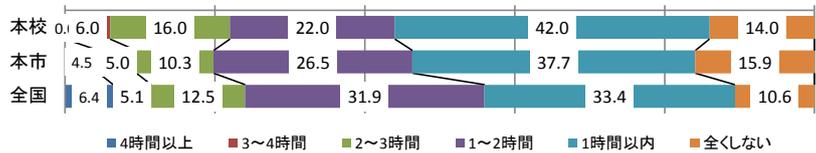
2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

① 家庭学習習慣に関する調査結果

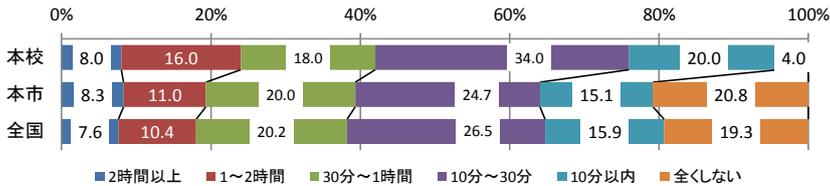
14
学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾や家庭教師含む)



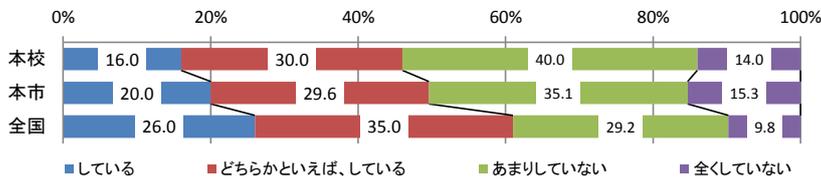
15
土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾や家庭教師含む)



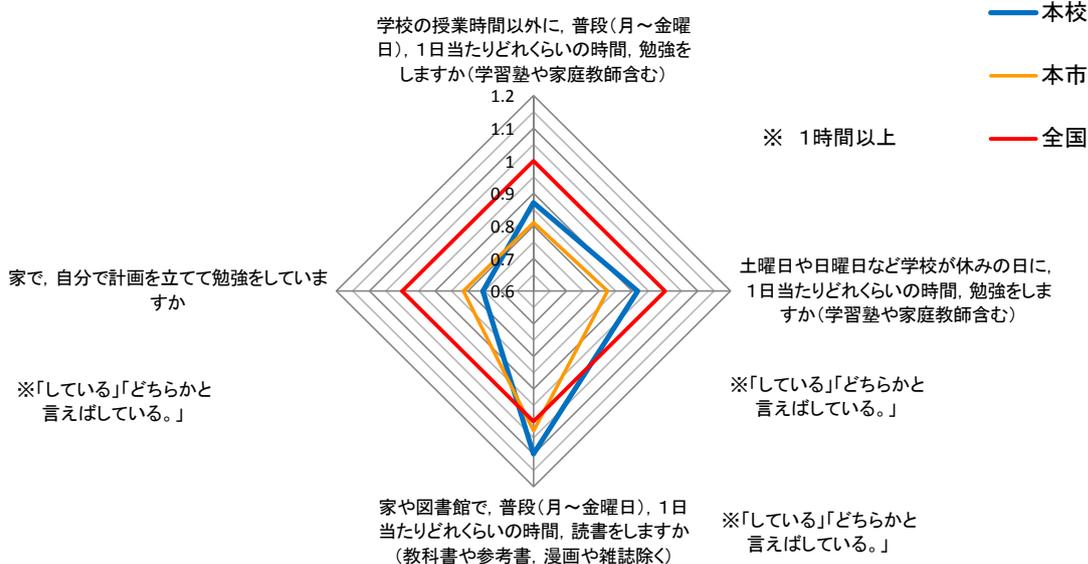
17
家や図書館で、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(教科書や参考書、漫画や雑誌除く)



21
家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか



② 本校と本市の対全国比(全国を1とする)

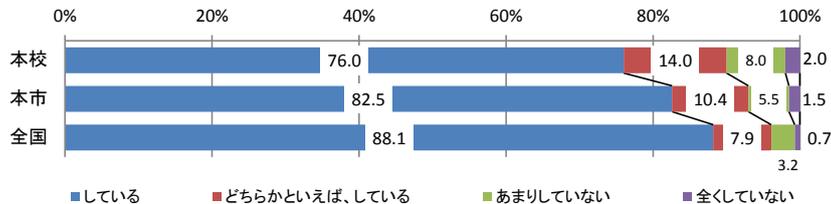


③ 家庭学習習慣に関する調査結果の分析

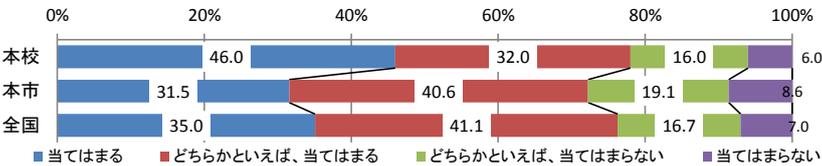
- ・平日の家庭学習時間は全国をやや下回るものの、1時間以上と回答した割合が半数を超え、近年増える傾向にある。土曜日や日曜日も、同様に近年増えつつあるとする回答結果が得られた。
- ・自分で計画を立てて勉強しているかの内容項目については、全国の割合より比較的低い傾向にある。本市の割合も同様であり、学ぶことについての自主性をより高めていく視点や工夫が必要がある。

④ 生活習慣等に関する調査結果

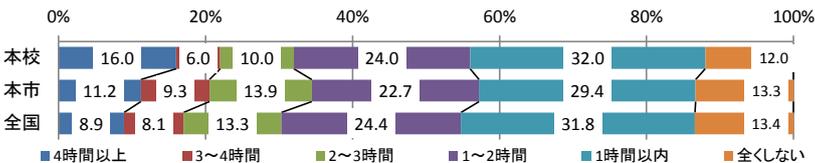
1
朝食を毎日食べていますか



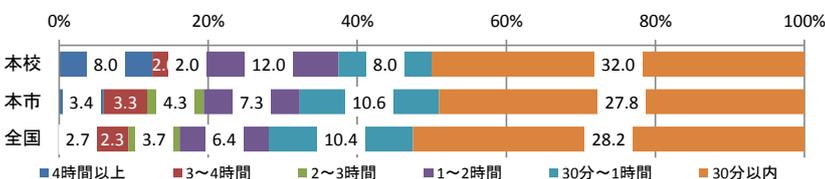
6
自分には、よいところがあると思いますか



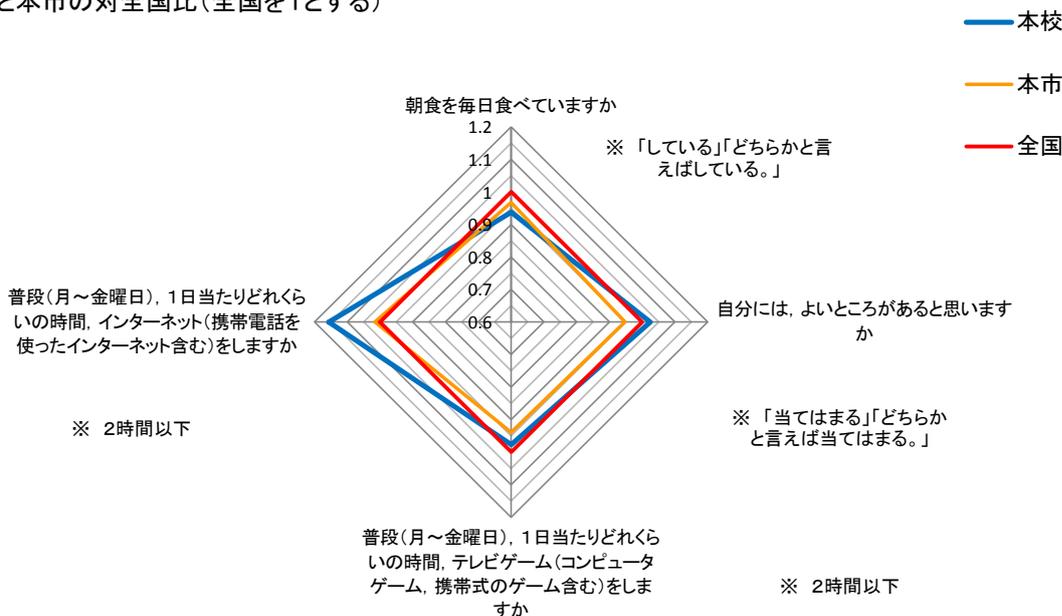
12
普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム含む)をしますか



13
普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、インターネット(携帯電話を使ったインターネット含む)をしますか



⑤ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



⑥ 生活習慣等に関する調査結果の分析

- ・ 自己肯定感を抱かせること、自分に自信をもたせることはとても大切なことである。本校では、近年やや上向き傾向にあるが、さらにどの児童も高めさせたい。
- ・ 平日、テレビゲームをする時間の割合については、全国とほぼ同様の結果である。1時間以内から3～4時間と回答の幅が大きく、回答時間も分かれている。
- ・ インターネットの利用時間については、1時間以上している割合が全国平均を上回っている。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

※ 「◎」は現在取り組んでいること 「○」は今後取り組むこと 「・」は事例

- ◎ 学力向上の研修の実施 ・課題把握及び共通認識 ・取組の進捗についての共通理解
- ◎ 学力向上の全校一斉特設時間の実施、取組の継続
 - ・ 朝自習の月～金までの学習内容を見直し、全校一斉に実施する。
(月・水)・・・全校一斉10分間読書 (火)・・・漢字、言葉の学習 (木)・・・計算の学習 (金)・・・全校視写タイム
- 国語、算数を中心に、基礎的な内容の知識・理解・技能等の実態を細かに見取り、習得を図る学習に努める。
- ◎ 過去問題、アシストシート、活用力を高めるワーク等の活用
 - ・ 冬休み、春休みを中心に、アシストシート、活用力を高めるワーク、学力調査過去問題等を配布・活用する。
- ◎ 「書く」ことの習慣化 ・学校研究の国語科のテーマとの関連を重視した、重点的な取組の充実を図る。
 - ・ 学習のめあてを書く、自分の考えを書く、最後の3分間を「振り返りタイム」とし、学んだことをノートに書く。
(分かったこと、考えが深まったこと、もっと知りたい・調べたいこと、・・・等、国語科、算数科を中心に取り組む。)

② 家庭生活習慣等に関する取組

※ 「◎」は現在取り組んでいること 「○」は今後取り組むこと 「・」は事例

- ◎ 宿題のスタンダード化(時間、学年別・教科別内容)
 - ・ 家庭学習時間の設定(低学年、中学年、高学年)と定期的な見直し
 - ・ 宿題についての学習内容の検討(学年ごとに)、及び自主学習ノートの活用(4, 5, 6年)
 - ・ 「家庭学習チャレンジハンドブック」の活用、及び評価、取組の啓発
 - ・ 冬休みや春休みの宿題に、アシストシート、活用力を高めるワーク、全国過去問題等の有効な活用
- ◎ 全国学力・学習状況調査の課題と取組等を保護者へ周知
 - ・ 学校便り、学校HPによる情報の伝達